

水の安全保障戦略機構設立

執行審議会「チーム水・日本」が発進

国内外の水問題の解決と世界のデファクトスタンダードの創生へ——「チーム水・日本」の中枢機関「水・日本」の増刊号で詳報。



発起人の森元首相が設立を宣言

中央大学後楽園キャンパスで設立準備会、第1回執行審議会を開き、機構規約案を承認、設立発起人である森喜朗元首相が設立を宣言した。今後、水の「権威機関」として日本水フォーラムを事務局に、行動主体となる各分野のチームの活動を支援し、国内外の水の方針を探求する有識者機関としての機能が期待される。

執行審議会に先立ち開かれた設立準備会では、行動主体となる各分野の「チーム」がその内容や課題を説明。現在、16チームが登録しており、下水道分野では日本下水道協会等が設立に向けて準備をすすめている

「下水道グローバルセンタ」などが含まれている。執行審議会は設立と運営の部を分け開催。32人（代

理含む）の執行審議会委員が出席した。設立発起人の挨拶で森元首相は「国内外の水問題を解決するには産官学が集まるだけではため国民全員の参加が必要。機構は国民と政府の中間に立ち支援していく」と機構設立の趣旨を述べた。

丹保教授は「日本の水がまとまる初めての機会。日本がもし次代のリーダーとなるならば21世紀、22世紀に通用するデファクトスタンダードを作らなければならない。それをこの機構のなかから育んでほしい」と日本と世界の将来を展望。御手洗富士夫会長の代理で挨拶した椋田哲史経団連常務理事は「ものづくりの現場での水利用技術や循環型水資源管理はわが国の大きな強みだが、これまで海外企業の後塵を拝してきた。政治の強力なリーダーシップのもと機構が設立されたことを機に、ますます多くの人が参加していただきチーム水・日本を盛り上げてほしい」と期待を寄せた。

丹保教授とともに執行審議会議長に選出された遠藤委員も挨拶に立ち「地球温暖化が危惧されているなか、日本は山紫水明の国と惰眠を貪っている多くの国民に再認識と協力を願いたい」と志高く言葉を寄せた。機構設立に賛同した麻生太郎首相からもメッセージが寄せられた。

執行審議会運営の部では専門委員会の構成が議論され、基本的な水に関する理念やチーム支援のための方策を検討する委員会▽産官学の連携や民間活力の導入を検討・推進する委員会▽技術の普及や開発をすすめる委員会——の三つを設置するとの原案が示されたが、委員会の正式な名称や具体的な活動内容については、今後、事務局で再検討することとなった。



遠藤委員長



森元首相



椋田常務



丹保教授